



2014年11月10日発行

現在の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産むとされる子供の数）は2012年で1.41でした。国の将来推計によると少子高齢化が止まらない場合、2060年代には人口が約8700万に減ると算定されます。65歳以上が約4割を占めることになり、社会保障制度や地域経済の維持が難しくなるとされています。それにより地方自治体の4分の1が消滅し、国の財政も破綻するリスクも高まるといわれています。まさに日本がなくなる（??）とまではいかないにしても相当厳しいでしょう。政府の有識者会議では、出生率を回復し50年後には1億人を維持し、年齢や性別に関係なく働ける社会にすることを目指すということが話し合われています。具体的には

- ・ 出産、子育てへの予算・税制支援倍増
- ・ 女性の就労と出産・育児をともに支援
- ・ 70歳まで働けるよう高齢者の雇用促進
- ・ 優秀な外国人の戦略的な受け入れ

が骨子となっていました。50年後、私たちの子孫はどんな暮らしをしているのでしょうか。日本は財政破綻し、円がなくなっている？かもしれないし、アメリカは力が衰え、中国が台頭している？かもしれない。「イスラム国」は？エボラは？いろいろ世界は動いているでしょう。家には何台ものロボットがいて、家事や育児や介護をしているかもしれないし、車が空を飛んでいるかもしれない。再生医療が進歩をとげ、人の老化のスピードが鈍くなっているかもしれない。人間のあくなき欲望がどんな形であらわれてくるのか、みてみたいものですが・・・。

